

コンサドーレ札幌 サポーターズ集会 2014



とき 2014年2月11日（祝） 12:00～

ところ 札幌コンベンションセンター「SORA」
107+108連結会議室

2014サポ集議事録(要旨)

齊藤（以下司会）：それでは定刻になりましたので、一旦後ろのドアをお閉めいただきます。恒例のサポーターズ集会をただいまより開催いたします。今年は長年夢でした関東サポーターの方にもこの集会を公開できるということで、関東後援会の川越さんがいらっしゃってカメラのセッティングを後ろでされており、関東後援会の方も都内で会場を借りて、今ここの映像が向こうに配信されています。こちらのやりとりが全部向こうに流れていますので、その辺も覚えておいていただきたいと思います。今回いろんな運営に関してお手伝いをしたメンバーの名前だけを発表させていただきます。会場係の千葉君、後藤さんご夫妻、松本さんご夫妻、渡辺恵子さん、鎌田貴子さん、熊野亜希さん、高森静佳さん、松村眞由美さん、齋藤恭子さん、中川さん。そのほかこの会場には用事があって来れなかつたですが、いろんなサポーターのお手伝いをいただいて運営されております。今後ろでカメラセッティングしているのが関東後援会の川越さんでございます。双方向の通信ではないんですね。はい。関東サポーターの方の質問はとりまとめていただいてるんですか。はい。あとで社長に質問をする時間に関東サポーターの方からメールで届いたものを、川越さんが代読していただいて、それにお答えをいただくという形を取らせていただきます。今年で丁度サポーターズ集会も20回目。というのは、我々のスタッフの前の時代に1年に2回やったという年度もありますので、丁度20回目になります。一番最初が1997年の12月27日の日に、OSCのアープライズ、エヌライズ、オールウェイズ、MLクラブと、この4つのOSCの代表の方が企画されて始まりました。その20回目がここで開催できるってことは、本当にみなさまのおかげだと感謝しております。それでは本題に入っていきたいと思います。まず野々村社長からご挨拶を頂戴したいと思いますので、よろしくお願いします。

野々村社長（以下野々村）：こんにちは。（会場：こんにちは）本当にいつもありがとうございます。関東サポーターの方にももう届いてるんですかね。関東の方もありがとうございます。僕が社長になってからまだ7ヶ月くらいですかね。よくわからない中、なんとか1シーズンやってきました。これからこうした方がいいんじゃないかな、ああした方がいいんじゃないかなと自分がやる前から

想像していたことで、想像通りのこともあるし、なかなかこれは大変だなということもあるんですけれども、徐々に方向としてはいい方に行きそうなんじゃないかなと考えてはいます。ただサッカーなので勝てるかどうかというところでいくと、自分もその世界にいたからよくわかりますけど、そんなに甘いものではないなというふうには感じています。どうやったら勝てるかと考えていくと、クラブはどうやっていかないかやいけないとか、サポーターの方達にはどういうところで力を発揮してほしいかっていうようなことを考えていかないかやいけない訳ですけど、どうせやるんだったらほかのクラブとはちょっと違うな、あのクラブ、あの地域楽しいなっていうようなことを、この数年間でなんとか完成というか、ほかとの違いを見せられればいいんじゃないかなと思っています。すぐに日本で一番強いクラブになろうなんていうのは当然簡単に行くはずはなくて、どつかの石油王でも現れてくれればポンと強くなる、強くなるだけならね。強くなるだけだったら単純にお金があれば強くなるんですよ。でも、それでもしそういうことがあったとしてもクラブの中身として。クラブと地域と、要はサポーターがなんかこう一つになれないようだったら強くなってもおもしろくないんじゃないのかなと思いますし、まずは北海道でなんとか以前の2000年とか2001年くらいの露出とか盛り上がりを取り戻せるようにがんばってやりたいなとは思います。これはそのまま続けて話をどんどんしてっちゃってよろしんですかね。この会 자체、僕はなにを話せばよくわからないんですけど。予算うんぬんかんぬんとか決算どうだったとかっていうようなことを事細かに話してもしょうがないかなと思っていますので、僕がやってみて去年1年どうだったかということと来年どうしなくちゃいけないかっていうのをざっくりとお話をさせていただきたいと思っています。今シーズン、本当にやらなきやならないこととして2つです。本当に簡単です。後ろの人、すみません、見えなかつたら。クラブライセンス。クラブライセンス制度っていうのをご存じの方も多いと思いますけど、Jリーグクラブでいれるかどうかの資格がもらえるかどうかのところです。コンサドーレの場合で問題になるのは、3期連続赤字だとクラブライセンスは剥奪されてしまいます。債務超過と同じようにクラブライセンスはもらえません。一昨年去年今年の3期でどういう判断をされるかということですけれど、最初に言った3期連続赤字に関しては、去年は何とかいろんな方々の協力も得て黒字で終えることができるような状況なので大丈夫だと。ただ債務

超過を解消しないと、来年は多分まだ J に残してもらえるんでしょうけど、再来年から J 3 の下、J F L に追い出されてしまうということになります。で、今期の一つの大きな目標は、クラブとしてなんとか債務超過を解消するくらい利益を出さないといけない。金額で言うと 3 千万円前後くらい。今期で 3 千万円以上の利益を出せるかどうかというのが一つ大きな目標です。目標というよりは達成しないと J のクラブではなくなってしまうので、絶対にやらなきゃいけないことです。もう一つは、グランドレベルの話ですけど、J 1 に昇格するということにトライをすると。さっきも言いましたけど、お金があればぜんぜん勝てるんですよ、簡単な話。去年、最後の最後で惜しいところまで行きましたけれど、僕は本当に素晴らしいパフォーマンスをシーズンを通して、だんだん若い選手も伸びてチームも良くなつていっていい仕事をしてくれたと思ってます。選手強化費、選手とか監督コーチスタッフの給料、そこに使うお金 3 億円くらいしか使えなかったんですよね。3 億円っていうのは多いか少ないかというと、J 2 で、いろんなところで僕は言っていますけど、13 番目か 14 番目くらい。サッカーはお金を使った順番で順位がついていくのがだいたい普通なんですね。要は、13 番目 14 番目のスタートラインだったチームが、最終的に 6 位になりそうなところまで行ったというところでは、コストパフォーマンスとして素晴らしい感じであります。去年優勝したガンバは多分 15 億円とかくらいは使ってたんじゃないですかね。正確には来年の資料を見てみないとわからないんですけど、だいたい J 2 でいうとガンバ、神戸、千葉、京都、徳島、横浜 F C とかそんな感じなんですね。要は本当に順番通りお金を使ったところが上に行っている訳ですよ。金だけじゃないとは僕は思いますけど、選手も勿論がんばるんだけど、クラブとして本気で J 1 目指すんであればそこにいくらか投資をしないと、いい結果は得られない。で、今期はクラブライセンスをクリアしなきゃいけないとかっていう難しい問題があるんだけれども、これを 4 億から 4 億 5 千万くらいはなんとか使って、スタート時点から勝負になるような戦力をクラブとして現場に提供しようというふう思って補強なりなんなり動いています。4 億とか 4 億 5 千万で J 1 に上がれるかっていうと、これも優しい数字ではないんですけど、去年のことを考えると勝負になるんじゃないのかなと考えています。J 1 に上がるってこととクラブライセンス制度をクリアするってことは全く別ではなくて、去年よりも 1 億 5 千万円から 2 億円くらい多分収入を増やさないと当然ク

ライセンス制度がクリアできない。どうやって収入を増やすかということを考えないといけないんですけど、うまくいってない会社はまずコストをどうやって削減していくかということをやらないといけない。当たり前のことではあるのですが、去年1年やってみて削れるコストが果たしてあるかどうかというとほんと少し。50万円とか100万円くらいだったら削られるところがあったとしても、何千万円削れるところは多分もうほとんどないと思います。コンサドーレのスタッフなんか、選手もそうですけど、全く高い人件費ではないし、ちょっとこれで大丈夫かなというような感じ。もしできるんであれば、ご存じの方も多いと思いますけど、会場使用料を削減できるかどうかというところが、うちの場合は全てだと思います。だいたい固定費で8億から9億円くらいかかるんですよ。選手の強化費を合わせるとだいたい12億円くらい。12億円の売り上げがあって3億しか強化費が使えない。30%から50%くらいは強化費に使えるのがだいたいJリーグクラブの平均なんんですけど、コンサドーレはそこまでいかないと。一昨年J2からJ1に上がった甲府は、J2の時は同じ12億円くらいの売り上げで強化費が5、6億円使っている訳ですよね。その差はいったなんなのかというと、やっぱり札幌ドームを使わなくてはいけないというところ。本当にめちゃくちゃ高い。日本で一番高いんですよ。日本で一番立派かもしれないのにかく安くしてくれというような交渉をするんですけど、これはなかなかダイレクトに受け入れてもらえることは難しくて。ただ、高い高い言っててもどうしようもない。あのスタジアムでいいところはなにかというと、やっぱりたくさん人が入る可能性があるというところ。ほかの地域にはなかなかない。ほかの地域だったら1万5千人入っても満タンだっていうようなところが多い中、4万人入れができる可能性があるというところに考え方を変えてやっていこうと。交渉も当然して。今期に関しては行政からも少し安くしてもらえるような措置を。年間数試合もらえていたんですけど、今期17試合あるうちのほとんどのゲームで減免措置をとってもらうようなことも認めてくれていますし、ドームさんも基本的な使用料は安くすることはできないけれども、なんらかの形でサポートしてくれるというような約束も取り付けてあるので、金額で言うと3千万とか4千万円くらいの、考えようすけどもコスト削減ができるシーズンになると思います。事務所引っ越しによって数百万円のコストを削減することもできます。その他なんかあるかっていうと、本当に細かな

ことでもしかしたらあるかもしれないけれども、そこをケチってどうなのというようなことぐらいしかコスト削減するようなことがありません。少し話すれますが、さっき3億円で去年6位になりそうなところまで行った訳ですよね。ところが、コストを削減しようとしたことでアウェイに18人連れて行くところが去年は16人しか連れて行かない試合が数試合あった。年間で何百万円のコストなんですね。もし18人連れて行けていたなら監督の選択肢も全然違ったでしょうし、勝ち点取れなかったゲームを勝ち点1取れるような結果を得ることもできた可能性も当然ある訳で、そこの数百万円は僕の中ですごく勿体なかったなというふうなイメージ。当然コスト削減しなくてはいけないこともあるけれども、勝負事なんで使うところ張るところにはしっかり張ってというようなことも今年はやらなきゃ行けないと。ちょっとお金を使って勝負をしたいというところです。で、どうやって収入を増やすか。去年より2億円くらいは増収入にしないといけないんですけど、ドームの数を増やしました。17試合やります。去年より9試合増えるってことになるんですか。そんなもんですよね。7試合？ 7試合しか増えないんだ。7試合増えるってことなんんですけど、厚別で試合をすると去年の平均でだいたい6千何百人。ドームの平均は1万3千人くらいなんですよ。要はそこで6千から7千人くらい、場所が違うことで来る人の数も当然違ってくるという現実があります。世界的に見てもサッカーのお客さんが増えるかどうか、やっぱり観戦環境は相当大きく影響する。かなりドームは高いけれどもそこにたくさんの人をまず呼んで見せたいというのが僕の中にあるので、ドームの数を増やして、イコール6千人から7千人厚別でやるよりも人数が増えるので、集客人数をまず増やして売り上げをしっかりとてたいというところで、ドームの数を増やしました。興業収入は3億円くらいだったのかな。予算から行くと、去年の経営陣の人達が建てた予算ですけれど、一応ほぼ到達しています。3億円なのに対して、今年そこで4億円以上の収入を考えていると。さっき言ったようにそこにもしっかりロジックがあって、そんな無理な数字ではないだろうと思っています。コンサドーレの、去年J2で一番お客さん入ったの、ガンバでしたかね。平均1万2千なんぼだったと記憶はしてるんですけど、例えば全部コンサドーレがドームでやるとすると、去年でもJ2の中でも1番2番の集客力はあるわけで、これは言ってもどうしようもないんですけど、こここの使用料さえ他の地域と同じになるなら、今の売り上げでも5億6億の強化費は

使えると。これは何回も言ってもしょうがないので、とにかくこのままの固定費で5億6億7億をどう使っていくかということ。で、集客のことに関して言うとやっぱり目玉というか。ここにいる人達とか、ここにはいなくてもコンサドーレをいつも気にしてくれている人達はやっぱりチームのことが好きだから「よいしょと言って応援すつか」みたいなところがあるとは思うのですが、もっと多くのお客様を呼ぶにはコンサドーレの近くにはいないけれどもサッカーにはちょっと興味があるとか、または何にも興味はないけれどもどっかのタイミング、きっかけで行ってみようかなと思うような、僕らの周りにいるみなさんよりも外側にいる人をどう取り込むかってことが一番大事なんですね。小野伸二を6月から取るっていうようなことになりましたけど、彼みたいなキャリアもあって名前もあって実力もあってっていうような選手をうちが取ることによって、そういう外側にいる人達の興味を少しでも引いて、お客様を増やそうと。口で言るのは簡単なんですけれど、僕はそれが一番新しい人を取り込むにはいい策なんではないかなと考えています。小野伸二のことについて言いますと、集客のためっていう発想からではなく、コンサドーレは若い選手をどうやって育てるかっていうところがすごく大事なところ。あいつみたいな、コーチが教えることができないようなことを魅せられる選手を近くに置いてあげることで、若い選手の伸び悩んでたところとか隠れている才能が出てくるといいなというふうに考えて彼みたいな選手を取りたいなと。当然集客にもいい影響を与えてくれるとは思いますけど、今年のコンサドーレ、クラブとしてもチームとしてもうまくいかどうか、一つ目の大きなポイントは伸二がいつ来てどういう仕事をしてくれるかということになっていくと思います。今のところ6月1日の契約ですけれど、いつ来るかはもうちょっと向こうのクラブと交渉を続けていきたいとは思っていますが、あんまり何回も何回も言っても嫌がられるだけなので、今冷却期間みたいな感じです。これは本田がミラン行った時と同じで、今出せば、大したお金じゃないんですけど何百万円かはオーストラリアのクラブとしてはお金が入ってくるんだけども、それよりも残り5月までの期間、彼にプレーしてもらったほうがありがたいっていうようなことなんでしょう。ACLに出て行くことが決まっているので、伸二がいないと向こうも困るってことになるんだと思うんですよね。ただACLの結果次第では早くなったらうれしいなっていうのは思ってはいるんですけど、これがなかなかね。Jリーグの1回目のウインドウが

3月28日まで。向こうとの間でその前に移籍させましょうかっていう話ができると、3月28日までに登録ができるて次のゲームくらいから試合はできるんですけど、そのリミットを越えてしまうと7月18日くらいだったかな、2回目のウインドウが開かないので、7月20日のゲームからというようなことになると。どうなるかもうちょっと見てみないとわからないです、本当に。僕らが決められることではないんですね。そんなんで興業収入をどう増やしましょうかというところ。あとは細かいこと。クラブの中でもいろんなことをトライしながらおもしろおかしく、とにかくメディアにしっかりと取り上げてもらえるような、言ってみればちょっとバカみたいな企画もどんどんやりながら。去年1年間やってきましたけれど、引き続きそれは続けていったらいいんじゃないかと。うまくいったものもたくさんあると思ってますし、おもしろいなっていうような集団にクラブとしてはなっていけばいいんじゃないかと考えます。あとは大きな収入として広告収入があって、今のところの感触でいうと、会社の事情で今回はちょっとすみませんというようなところもなくはないんですけど、総じて現状維持かプラスでスポンサーをしてくれるところが。ちょこちょこといろんな新しいところが出てきているので、そこもしっかりと2億円3億円増やすなきやいけない。売り上げの中の一部としてはがんばっていかなきやいけないかと。感覚としては悪くはないです。けれども、相当がんばらないとクラブライセンス問題と、J1に上がるための強化費にお金を使うってところはクリアできない。もう一つ、これも報道でいろいろと出てクラブからもリリースさせてもらいましたけど、松山光プロジェクトっていうのを今期から立ち上げて。一応もう一回どう言うものかって説明しますけど、キャプテン翼の中の北海道出身で富良野出身の松山光君というキャラクターをまずはチームに入れましょうと。36番で入れました。松山君に何を期待するかっていうようなところは、この間ファン感謝デーでもいいましたけど、彼みたいな選手をしっかり育てたいと。どういう選手かっていうと、翼君とか三崎君とか日向君みたいにタレントがあるわけではないんだけども、地方のクラブでありながらすごく一生懸命がんばって、精神的にもたくましい日本代表選手。みんなで力を合わせてやれば作れるんじゃないのかなと思うんですよね。ああいう選手をとにかく育てたいと。近い将来なので、次のオリンピック代表に何人選手を出せるのかとか。東京オリンピックの時にコンサドーレから代表選手をなんとか出したいと。マンガとリアルな世界と

よくわからないところがあっても、いろんな意味で興味を引く。さっきも言った通り、周りの人達じゃない、外側の人に興味をもってもらうためにも何かインパクトがありながら、みんなで協力できるような仕組みを考えたときに松山光プロジェクトっていう発想になりました。今までもサポーターの方とか一般市民の方とか、コンサドーレがつぶれそうな時っていうのかな、増資をするとか出資のお願いを何度もかしてきているんですよね。ああいう時って、うまくいかないからなんとかマイナスをプラスにするために、つぶれないために協力しようって言うようなイメージのお金の出し方はどうしてもなると思う。松山光プロジェクトに関しては、考えによって同じ側面もあるんですけど、去年一応黒字にもなったし、もっとコンサドーレが強く、いい選手が育っていくためにゼロからプラスにしようよというような発想で、いろんな人に協力してもらいたいというようなプロジェクトになります。ほぼ広告と同じような扱いになるので、広告収入の中の一部ということに会社としてはなります。使い道は、強化とか育成とかっていうところに使っていきたい。僕が考えるに、サッカーの楽しみ方っていうのは、プレーするのは当然楽しいし僕もよくわかってる。自分がやらなくても例えばTVで見てとか日本代表の試合を見てとか、コンサドーレの試合をスタジアムで見てとかっていうような楽しみもあるのもわかる。実際にクラブに入ってみてクラブを作る、もっと大きくするっていうような楽しみも一つだと僕自身は思いました。勿論無理矢理参加してくれというわけではないんですけど、自分でクラブを作っていく。参加したことによって、チームがどうなっていくとか若い選手が伸びていって将来ヨーロッパに行くとかオリンピックに行くとか日本代表になるっていうような楽しみ方も、大きなサッカーの楽しみ方だとは思うので、そういうものがコンサドーレには他の地域と違つてあるよねっていうことになつたら嬉しいなと。圧倒的に他の地域と違うのは、そもそも成り立ちがコンサドーレって市民クラブなんですよね。筆頭株主がサポートーズ持株会みたいなクラブは他にないと思いますし、だからこそ難しいところはあるんですけど。難しいってのは、例えばマリノスとかレッズとかトヨタとか、トヨタじゃないや、そういうところがいっぱいあるわけですよ。すごい売り上げのあるでっかい会社が筆頭株主、正確にはわからないんですけど。うちは本当に市民の人が筆頭株主なんですよね。だからこそどんと行かないんですけど、クラブへの愛、協力の度合いみたいなところは大企業のそれとは比べものにならないくらい

いあると思うので、例えば松山光プロジェクトで言うと1万人くらいの協力者。僕の中ではキャプテン翼的に言うと「ボールは友達」、本当に1万人の友達を集めて行くぐらいやりたいなと考えています。サッカーとかサッカークラブの役割として、何かと何かを繋ぐということが僕は一番わかりやすい言葉かなと思うんですね。サポーター同士コンサドーレをきっかけに繋がった人もいるでしょうし、企業とコンサドーレを通して、一般の市民サポーターを繋いでいるっていうのもサッカーですね。とにかくいろんな人を繋いでいってほしいなと。サッカーでも同じです。リスクを犯しても僕は繋げるサッカーをしたいと思っているので、コンサドーレとしてのキーワードとして繋ぐっていうことを意識してもらえるとありがたい。今回のプロジェクトでも、僕がパス出しましたみたいなもんですよ。サポーターのみなさん、一人一人に。それを僕に返さないで、全く違う他の人にどんどん繋いでいってもらいたいんですよね。最終的に1万人にパスが回って返ってくるくらいのイメージでいろんなところに。お金出す出さないは別として、こういうのあることを広めていただけたら非常にありがたい。それが本当に繋がって1万人くらいの人達がそのパス回しに参加してくれると、おもしろいクラブになるじゃないかなと思ってます。小野伸二が入ることもすごく大きなことだし、松山光君が入っているところで貢献してくれるっていうのも今シーズンのコンサドーレにとってはすごく大事なポイント。その2つが今のところ、コンサドーレどうすんだと言われた時に今シーズンはこれが結構大きなテーマですよと。本当はもう一個レコンビンというのがあったんですけど（会場笑い）、あれがどつかいっちゃいましたんで。もう話してもしょうがないんですけど、あのメンタルティは相変わらずスゴいなと。8月になったらまた行きたいということを言うわけですよ。だからスゴいなと思って、本当に。僕は全然いいんですよ。まずは俺らのところにきてしっかり話をして謝罪をして、納得するんだったら全然やってもいいですよ。あの一件でやんなちやったってことは全然ないし、これはきっと国民性とか彼のキャラクターとかなんだろうなというふうに解釈しているので。でも、レコンビンに限らず東南アジアとの連携は引き続きやって行きたいと思っていて、実際に今選手は取ろうとしてアプローチはしてるんですけど、少し遅れちゃったところがある。向こうもシーズンが始まって、すぐにポンとそれなりの選手を取れるような状況にはないというか、ちょっと難しい状況ではあります。ただ、なるべく早く東南アジアの選手を

入れたいなということは考えています。これも何かと何かを繋ぐっていうところ。去年レコンビンでわかったことは、ああいう選手は英雄みたいな選手なので、ベトナムの9千万人の人をコンサドーレを通して北海道と繋げることができた。これはコンサドーレのすごく大きな価値になったと思いますんで、同じようにそれなりの人数を繋げることができそう選手を獲得したいと思っています。それができれば3つ目の柱にはなるんでしょうけど。そんなことを考えながら、とにかく去年よりも売り上げを2億3億増やすことができれば、クラブライセンスもクリアできるし、J1にあがるということは断言できませんけれどもそこそこのプレー、成績は望めるんじゃないのかなと。近い将来この強化費を7億円くらい。J1に上がって7億円。これって少ないです。J1からJ2に落ちないために必要なお金は10億円くらいだというふうに考えられていますけど、7億円あれば僕は残してそこそこのチームにできるじゃないのかなと思っています。それが実現するためにはしっかりと下から、ユースから毎年一人二人。それもタレントのある選手が上がってくるというような循環があるって前提じゃないと7億円で常にいいチームを作るってことはできないと思うんですけど。僕も2年目になるのでこっから何年かやるっていうふうに考えたときには下部組織もしっかりと手をつけなきゃいけないと考えています。そこそこ成績は出てるし僕自身も育成のコーチ達も勿論評価はしてるんですけど、キラッと光るタレントがこの10年とかでてこないんですよね。それは単純に日本で一番を目指すっていうことを考えたときに感じるんであって、ダメって言ってるわけではないですよ。例えばセレッソはなんでそんないい選手がでてくるのに、うちからもたくさん人は出てきてるけど、あそこまでのタレントがでてこないのは絶対に僕は下の年代のときに何か足りないんだというふうに思っているんで、そこをどうやって変えていくって、より一層育成をよくするかということをやらないと将来的に苦労することになると思うし、さっき言ったみたいに、低い予算で上を目指すということがしにくくなってくるので。すぐにうまくいく、勝てる勝てないに結びつくところではないんですけど、やっぱり3年後5年後を考えたときは育成をもうちょっと充実させないといけないと。僕ばっかりしゃべってもしようがないですから、なにかもし質問があれば質問を聞いて僕が答えたほうがよっぽど楽しいと思うので、なんか質問ないですか。

司会：その前に町田専務からのなんかちょっと補うところとか。

野々村：ないないない。

司会：なんもない？　ないんですか？

野々村：大丈夫です。

司会：いいんですか？　はい。じゃあ、社長に質問タイムということで、挙手。

野々村：はい、今手を挙げてくれた方いました。

司会：えっとマイク。すみません。お名前を名乗ってからお願いします。

挙手者：室蘭からきてますイマイズミと申します。こんにちは。

野々村：こんにちは。

挙手者：松山光プロジェクトって大変素晴らしいアイデアだと思っているんですけども、看板としてはインパクトのあるものだと感じています。継続性というところで今後こういう活動を、今出てるのは強化費と育成と言うことで表にでているところですけれども、具体的に今こんなことを考えていてこういうところにお金を使いたいとか、それをいつどのタイミングで参加した人にアプローチというか返すというか、みせるというんですか。今どんな状況になってるのかちょっと教えていただければ、もっと参加したいなってなると思うんですけど。

野々村：了解です。何に使うかというところですけど、さっきも言いましたが、これは育成とか当然強化といっても若い選手を使うんですけど、具体的にということになると結構難しいですよ。予算って4億5千万円使いますっていったときに、今の時点で今期の売り上げが全部出そろってる訳でも当然ないので、4億5千万円を達成するために今シーズンを通していろんな。要は興業収入だったりお客様を入れたりしていかないといけないというのとか、広告を集めたりしなくちゃいけ

ないというようなところですよね。だから変な話、伸二を取るというようなことも、もしかしたらその一部なのかもしれない。だけど、僕らのイメージでは、結局お金はクラブには入るんだけど、そのお金は若い選手の例ええば給料とかというようなことにどんどん充てていくというイメージにしたいんですよね。実際にユースが遠征に行くからこれだけくださいみたいな集め方ではなくて、クラブとして全体に若い選手に投資をするところにその費用を充てるし、それが集まらなかつたら自分たちで持ち出しをしてでも充てなくていけないんだけれども、具体的にこれっていうふうには言えないところはありますよね。ここは本当に難しいんだよね。例えば松山光プロジェクトで伸二を取ります。伸二の給料とかいろんなものに使いますっていうようなことを言っても間違いではないんだけど、そうじゃなくて若い選手にどう使うかっていうようなことでも、もし集まらなかつたら使えないってことになるじゃないですか。なんとかいろんな予算の中から、そこには先にお金を入れておくんだけれども、トータルで考えたときには若い選手に使ったものがいろんな松山光プロジェクトで集まったものを充てますって言ったようなことにしかできないというのかな。今年集めたものを来年これに使いますというようなことは言えると思うんだよね。チームが動き出してるんで、今は言いにくいかな。言ってもいいんだけど、言ったら嘘になると思うんだよね。今コンサドーレの若い選手がすごいたくさんいる。全員がすごいタレントがあるっていうことは、僕がプレイヤーだったとしたら言い切れないんだけど、彼らをどこでどう伸ばして半分くらいがしっかりとコンサドーレの中心になっていく競争をするために若い選手がいるんですよね。お金がない、大変だっていいながらも、やっぱり育成型のクラブを目指す以上、だいたいサッカークラブって30人くらいいれば十分なんだけど37、8人いたりするんですよね。それは若い選手がそこにたくさんいるからで、本来だったら多分20才前後の若い選手半分くらいしかいないと思うんだけど先行投資っていうかな。クラブとしては給料を払って面倒を見ながら外に出したり、どのくらい伸びるかというのを今見ているような状況。そういう育成という試みに対して、松山光プロジェクトみたいなお金を使っていくっていうようなイメージ。去年やっていれば、いくら集まりましたってのがあれば、そのお金を今期の例ええば誰々誰々誰々誰々、若い選手の何人の給料に充てますということが言えるんだけど、さっきも言った通りそれは言えない。だけど、使い方のイメージとしてはそ

なると。一方で、強化費の一部はプロジェクトで成り立ってるというようなこともコンサドーレにはあってもいいと思う。あと一個なんだっけ？

拳手者：要は、それをどうやってそのリターンっていうんですか、出資した人に一応報告は。

野々村：その報告はメルマガなりなんなりで報告するのと、年に1回か2回こういうような場で説明、報告会をしたりすることもそうだしつていうようなことを考えてはいると。一番の報告は次のオリンピック代表に誰かが入るっていうことが一番かなとは思いますけど。はい。

拳手者：ありがとうございました。

司会：はい、その他ございませんか。はい、中央の赤いシャツの方。

拳手者：西区琴似から来ていますカナヤと言います。強化費が少ない中で、鳥栖が2年連続J1に留まったといいますか、1年目はかなりな好成績を残して。今年もギリギリではないながらJ1にいます。社長が見るポイントとしてどういうところがよかつたのかと。

野々村：鳥栖ですか？ 一昨年コンサドーレがJ1で最下位だったときに5億円弱くらいだったんですね。で、鳥栖は6億円使ってたんですよ。コンサドーレよりも1億円多く使ってた。でもおっしゃる通り、そのお金で残留ないし上位にいったっていうのはすごいことだと思います。すごいんだけど、多分長く続かないんですよ。そういう感じのクラブでいいのかっていうと、僕はいいとは思わない。ただ鳥栖もクラブとしてすごいのは6億円で残留させてもっと収入を上げて、おそらくもうちょっとお金を去年は使っていると思うんですね、強化費に。あのステップはすごくいいなとは思いますけど、ちょっとのお金でたまたま1シーズンいいパフォーマンスをしたっていうことで実力が付いたと思うのは多分間違い。鳥栖を見習わなくてはいけないと思いますけど、実際にああいうステップでだんだんだんだん強化費が多くなっていけばいいんですけど、同じ強化費で鳥栖がやっていたとしたら、ずっとJ1にいることは難しいと思います。そのためには、クラブとか地域が売り上げを伸ばす、強化費をどれだけ使えるかということを考えないと。鳥栖のサッカーは

すごいなというのは、頑張れる人達がたくさんいたってのはありますよね。これはサッカーに対するアプローチですけど、守備をベースに残留を勝ち取るっていうことを鳥栖はやったんだと、僕は見ています。そういうアプローチでやる方法もいいけども、コンサドーレはまたちょっと違ったアプローチで、もっとクリエイティブなことをやりながら残留を成し遂げたい。鳥栖が上がって残ったのとは違った感じで残留したいなと思います。ただ、収入、強化費をちょっとずつちょっとずつ上げていけるようなクラブとしての成長は見習いたいなと思います。

司会：よろしいですか？

挙手者：はい。個人的には豊田陽平がすごく良くて。

野々村：はいはい、そうですね。豊田が、残せたのがもう1年残れた最大のポイントだと思います。きっと相当お金を払ったと思うんですよね。イコール強化費をたくさん使ったっていう事になるんですけど。ま、それが出来たっていうところがやっぱクラブの勝利。残留に繋がったっていう事ですね。

挙手者：ありがとうございました。

司会：はいありがとうございます。じゃあ次。はい、そちらの方。お名前お願いします。

挙手者：赤黒学生連合のフジムラと申します。赤黒学生連合ですけれど、一サポートーとしての質問なんですけど。札幌ドームの使用料は、なんか条例で定まっているみたいな話を小耳にしたんですけど、それは確かですか。

野々村：確かです。

挙手者：という事は、署名とかいう形を取って誓願だったり陳情だったりっていう事を、市議会だったり市の方にする事っていうのは考えてないんですか。

野々村：考えてなくはないんですけど、それをやつたら上手く行くかっていうと何て言つたらいいかな～。これ、一番綺麗な形じゃない。市民がこんだけこういう風に思っているっていうのを見せるっていうのは、パフォーマンスに成りかねない所がある。そういう事もこの先必要なかも知れないけど、実際に裏でというか。こうしてくれないとクラブも困るし、他の地域と比べてサポートが、札幌というエリアが足りないという事も訴えながら段々やっていった方が多分いいと思うのね。仲間をとにかく増やした上で最後、それがひと押しかなと僕の中では思っている。もしそういう事をやってくれる人達がいるなら相談に来てくらたらいいですね。こういう方法で色々な準備をしながら最後そうしようかというようなね。でも本当、本当に高いのよ。びっくりするぐらい高いんですよ。1試合800万円なんですね。使用料だけで800万円んですよ。でっかい箱なので警備とか何とか含めると普通に1500万円くらいかかるんですね、1試合やるのに。例えば、もっと地方に行くと150万円とかで出来ちゃったりするんですよ。すごくいい場所ですごく嬉しいんですけど、高いっていうのだけは何とかならないかなど。去年昇格した徳島とコンサドーレがやったアウェーの試合なんか1900人くらいですよ、お客様。それなのに徳島の方が強化費使えるんですよ。クラブとしては本当に素晴らしいんだけど、そういう。もうちょっと周りが何とか皆でやろうという風になつたら、もっと良くなるのにと本当に思ってます。でも使用料に関しては下がらないけど、何千万円かは一応。今シーズンに関してはサポートしてもらう約束にはなっているので。まあ、根本が変わるのが一番いいですけどね。愚痴なりますけど厚別も多いんですよ。25年前に出来たスタジアムで、あのピッチコンディションとか。プロのサッカーをやってはいけないピッチコンディションなんですよね。皆さんは聖地みたいな感じでいい思い出があるかもしれないけど、僕らがやってた頃ですら、なんだかな～このグランドと思ってやってたんですよ。あれからもう十数年経ってる訳ですね。それで同じようなコンディションなんで、そりゃあサッカーの質が上がるはずがないですね。それでいて高いっていう。何度も去年、Jリーグの人からこれは芝生じゃないって言われましたからね。Jリーグの芝生担当の人から。まあ、でもやるしかないんですよという事になっちゃいました僕も、遂に。はい、次お願いします。

司会：はい。そちら、奥の方でマスク付けていらっしゃる方。お名前をお願いします。

挙手者：オオタケと申します。三点程聞きたい事があるんですけど、ひとつずつの方がいいですか？

野々村：いいです。言ってくれれば書きます。

挙手者：あ、そうですか。まずクラブライセンスの所で、今社長の方で入場料収入を1億円ぐらい上積みしたいという中で、ドームの日数が増えるというお話あったんですけども。ただドームで日曜日のナイターと月曜日の試合が2試合あると思うんです、今の発表の中でも。で社長、スカパーの番組で月曜日の試合、ちょっとやってみたいなというお話もあったもんですから、その辺なのか日程上どうしてもっていう絡みなのか。

野々村：両方ですね。

挙手者：あー、両方。

野々村：あっ、ごめんなさい。答えちゃった、もう。じゃあその事について話しますけど、17試合確保する上で他の土曜日とか金曜日は貸してもらえなかつたっていう事実あって。僕の中では月曜とか金曜とかをやりたいなと思ってはいたんですよね。だけど金曜日が出来なくて、月曜日2回っていう風になりそうというかなったというか。これね、月曜日だと当然行けないよという人もいるとは思うんですよ。一方で日曜日だから行けないよという人も当然いるんだけど、そういう人を対象としている訳じゃなくて、プレイヤーというか子供。小学校、中学校、高校生って土日ってどうしても自分のサッカーの試合があったり、大人も特にプレイヤーに関しては土日なかなかJリーグを観に行けない。サッカーをやっている人達が観に来る事が、一番近くにいる潜在的なお客様なので、子供にいい物を観せるっていう意味も含めて、プレイヤーを呼ぶ為には月曜日の夜しかないかなと考えたんですね。去年、札幌市サッカー協会とか道のサッカー協会に協力してもらって、1試合だけ子供達の試合をやらない日を作ってもらって、その日をコンサドーレの試合にして、そ

こで6000人ぐらいのプレイヤー達が来たと、親も含めて。そういう環境を、何とか月曜日で作っていってファンを増やしたいなっていうのがあります。

拳手者：最初、スカパーの時に社長の話を聞いた時に、斬新というかすごいアイデだなという風に思ったんですけど、ただ、正直ライセンス問題があつて、もしそれが達成しない場合、本当にJFLに落ちてしまうというか剥奪されてしまうというのが、私としてはすごく残念。そういう事はあってはいけないと思っているんですよね。という事は多分、社長スタッフの中で月曜日の集客を何とか本当に増やしていく企画とかもあるとは思う。今聞きたいっていう訳じゃないんですけど、ドームの試合増やした分、何とか1億増やしていきたいなと思っていると思うんですよね。はい、で。

野々村：何だっけ？あの、心配は心配ですよ。月曜日、どのくらいお客様が集まるんだろうという心配は勿論あるんだけど、これこそクラブライセンス制度の中のひとつに8割、コンサドーレでいうとドームでやらないといけないんですよ。そうすると17試合という事になるんだけど、結局さっき言った通り17試合やるには月曜日をはめるしかない訳で、その17試合やるっていう事もクラブライセンス制度の中のひとつのポイントなんですよね。17試合やった中の1試合の月曜日、そのせいでお客様が集まらなくてというんであれば、それもクラブライセンス制度クリア出来ないっていうのと一緒に。今年だけじゃなくて来年再来年ずっと8割以上ドームでやらなきゃいけなくなるんで、今年に限った問題ではないという事ですよね。今年うまたまた月曜日やらなくて土曜日出来たとしても、来年のスケジュールで月曜日が入つて、それでコンサドーレは債務超過を解消出来ませんでしたと言つたら同じじゃないですか。いつの時も、その条件の中でクリア出来るようにクラブもしていかないといけないって事はあるんですよね。まあまあ、何とかしましょうよ。

拳手者：はい、分かりました。で、次ですね。松山光プロジェクト。私もすいません、一口だけなんですけども入ろうとは思ってはいます。

野々村：有り難うございます。

拳手者：はい。ただ心配なのが若手の強化費とかお給料とか、そういう所にまずは充てていきたいっていう、最初にプレスリリースもありましたけど、例えば曳地選手と三上選手が戦力外になりました。正直いうと、私が出費をするのは例えはある特定の選手、このユースの選手に頑張って欲しいからお金を出した。でも、例えその選手が戦力外になってしまった。で、それはもう仕方がないと思うんです。クラブとしてそういう方針を立てたと、そうなったんだと。ただ、難しいのかもしんないんですけど、何でその選手が戦力外になったのかっていうのが正直私には。特に三上選手とか、私すごく期待してたんで。それが私の中では伝わって来なくて。社長が出ているラジオとかでちよろちよろとこう言った感じのニュアンスでああそうなのかなというのは分かるんですけど。もしこのプロジェクトをやっていくんであれば、そういう所をもうちょっとしっかりと。何故この選手がそういう風になったかっていうのをもう少し言って欲しいなっていうのがあるんですけど、難しいですか？

野々村：難しいと思います。今の言った事は良く分かるんですよ。こいつに頑張って欲しいからって言ってプロジェクトに参加して、そいつがいなくなったら。プロジェクトに参加してもしょうがないと思ったら、僕はその人は一旦プロジェクトから外れればいいと思うんですね。だけど、逆に自分の応援している子がもっと上に行ったら、そりゃあ相当嬉しいと思うんですよね。投資した人にとって全てが上手く行くという事は、そんなに多くある訳ではないと思うので、そこはポディテブに考えていい方にいった人を想像すると僕はすごくうまく行くんだけど、今おっしゃったような人はちょっとつまんなないなと思う事もあるかもしれない。それも、僕は許容範囲の中でしようがないと思ってる。もうひとつ、この選手がダメだったっていう風に判断をした理由を伝えるのはなかなか難しいですよね。本人のまだプレイヤーとしての、あれもありますしね。それこそ僕がラジオで言っている言葉の端っこくらいから読み取ってもらえたらいい。簡単に言うとちょっとメンタルが弱すぎるっていうかな、そういう事です。だから1回外に出て。若いユース上がりの子達からして、コンサドーレとしては契約が終わるっていう時が早い段階であるかもしれないけど、外に出てプレイヤーとして戦って逞しくなったら帰ってくる可能性があるっていうのを見せる為にも、

石井ちゃんが帰って来たって事はすごく大事だと思ってて、そういうチャンスはまだまだ彼らもあるしね。遅しくなって帰つてくれたらいいなと思ってます、ぐらいしか言えないっすね。

拳手者：分かりました。今年からJ3が出来てゴメスとか夢実とか。阿波加選手は育成型だから。そうやってJ3にレンタルっていうのもあったじゃないですか。だから何となくあの2選手もJ3の何処かについていうのもなかったのかなとすごく。

野々村：まあ、なくはないんですよ。じゃあもうちょっと、年齢はかなり上までいってるけど、うちのクラブで抱えた上で、例えば何百万円。二人でじゃあ1千万円コスト掛かる訳ですよね。掛けた上でも、外に出すっていう事が松山プロジェクトである程度資金が出来たんであれば、そういう使い方をしますよという事は言えるかもしないですね。だけど、その他の若い選手は本来だったら今クラブには置いておく事は出来ないような状況だけれども、15人抱えてる訳ですよ。だからここに1億円とか使って、お金を払いながら自分達の選手として武者修行に出している。これはもう育成をしているっていう事以外、何物でもないんですよね。その他のパイをもっと大きくして、二人を残すっていうような選択も考えられなくはないけど、そこまで資金はないっていう事です。

拳手者：分かりました。最後の質問なんですけど、去年、社長、本を出されたじゃないですか。私、買って読んだんで。

野々村：有難うございます。

拳手者：社長のお言葉の中で印税はクラブの方にというお話があったと思うんですけど、今回黒字に辛うじてなりましたけども。

野々村：はい。あのね、まず印税なんて殆どないから。（笑）まあまあ、本当に殆どない。

拳手者：どのくらい印税とか、クラブに貢献があったのかなというのが、ちょっと聞きたかったん

です。

野々村：全くないです。何か貢献をしているとすれば、そういう自分が動いた事によって色々な所で頼まれる講演みたいなものは殆どクラブに取られてる。あげてる訳じゃないですよ。取られてるっていう。

挙手者：分かりました。有難うございました。

野々村：有難うございます。

司会：はい。その他、質問ございませんか。前にお座りの方、お名前を名乗ってからお願ひします。

挙手者：東区から来た佐々木といいます。よろしくお願ひします。

野々村：お願ひします。

挙手者：去年私はここで野々村社長ですね、野球に関してどう付き合うかという質問をしまして、大変困惑させ、それを予め先にお詫びさせて頂きたいと思います。申し訳ありませんでした。

野々村：多分あれパフォーマンスです、僕も。困ってるっていう風に見せてただけです。

挙手者：簡単にお聞きしたい内容としてはお金。先程からお金の話と選手の話とそしてJリーグその物の起こっている出来事の中のひとつについて、ちょっと聞きたいと思います。お金の話というのは、J1に上がってから予算の話なんですが。2008年と2012年、J1に上がりまして。その時にJ1に残る為には予算の無理をしなきゃいけないと言って、若干予算的に無理をして選手を入れて1年で落ちました。結果的に経営危機というか債務超過だったり、次の年予算的に苦しい事が起ったと思うんですね。で、次J1に上がった時もやはり先程のクラブライセンスの兼ね合いもあるから無理はされないと僕は判断しているんですけども、ただ3期連続の赤字だったらライセンス剥奪と。逆にいうと2期赤字でも何とかなるんじゃないかなという風に受け取られる場合もあ

ると思うんです。野々村社長は今期J1に上がる場合、これからJ1に上がる場合もですが、予算的な考え方として1期ぐらい赤字でも何とか、サポーターも助けてくれるんじやないかというお考えなのか。それとももっとシビアに、J1に上がるんだけれども今ある予算の中で身の丈に合った予算を組んで、後は選手の頑張りで何とか残ろうじやないかというお考えなのかという所をお伺いしたいんですが、如何でしょうか。

野々村：あのね、2期3期連続赤字じゃなければ当然いいし、何でそういうルールというか。サッカーのビジネスって、この先何人お客様さんが入るかとかも分かんない中で予算を立てていかないといけないので、予算通りにやるのは難しい、たぶん。今までではきっとかなり無理をして予算を作つたっていう事実あったんでしょうけど、僕は3シーズンのうち1シーズンぐらい赤字でも全然いいと思いますよ。全然いいっていうのは、何か投資をして当たるか外れるか分からぬ所。例えば選手を1億円掛けて取って、チーム成績が良ければお客様さんもそこそこ増える訳だし。JリーグでチャンピオンになるとかACLに出て行けるっていうようなトライをこの選手に託してみようと思ったけれども、パフォーマンスも上がらず上手くいかなかつたというようなシーズンも当然あると思う。どっかで勝負を張らなきゃいけない所はあって、当然だと思う。常に身の丈にあった安定感を出す必要はないと思ってます。さつき少し気になったのは、赤字が出たらサポーターに助けてもらうという発想はないです。サポーターに助けてもらうっていうより、僕はサポーターとそもそも一緒にやっていると思いたいので。こっちが運営をしていて上手くいかなかつたからお願いしますよ助けて下さいっていうような関係では、コンサドーレのチームとサポーターはないと思うような関わり方にしたいっていうかな。あとなんでしたっけ、そんな感じだっけ？

挙手者：予算の話で。Jリーグでは、去年だけではないと思うんですけど、プラスクオリティプロジェクトというのをやってました。要するに観客動員が少ないので、選手の異議が多いから減らしていくましょうという、大まかに言うと。試合を觀てる方も多いと思うんですが、選手の異議以前にもっと取り込むべき問題が他にあつただろうという事なんですよ。去年大問題というか、異議以前の問題としてあったのが審判の話です。すいません。はっきり物が言えない性格なもので申し訳

ありません。去年の5月かな。浦和と鹿島で、大迫のオフサイドを完璧に見逃した、それが得点になっちゃったっていうのがありました。ごめんなさい、間違いました。興梠だ。浦和の興梠がオフサイド、完全に見逃されて点入っちゃった。後でJリーグ、それは誤審だったというのを協会が認めたんですが、当時の川上審判部長が何て言つたら、誤審は誤審だったけれどもそのシーンを繰り返し繰り返し場内で放映した浦和の運営も問題だみたいな。簡単に言えば、責任が一体どこにあるのかと。完全にはぐらかすような事を審判部のトップが言うと。なお且つ誤審だって認めておきながらその異議で出たカードは取り消されてないんですよ。という事を考えますとクオリティを上げるのは、要するに都合の悪い所は全部チーム、選手に押しつけておいて、Jリーグのトップまたは協会の偉い方は、責任は一切負わないのかっていう事を思う訳です。クオリティプロジェクトのページ、タブレット端末とかお持ちの方見てもらったら分かるんですが、選手とチーム社長と代表者、監督に、その検証という所でサインをしてもらってやってるんだけど、Jリーグのトップの方とかはそういう事はしてない訳です。クオリティを上げようと思うなら協会やJリーグの偉い人も一致団結して観客動員のアップに繋げていこうっていう姿勢をもっと出さなきゃ駄目だと思うんですね。勿論観客動員が上がれば札幌にもすごい利益があると思うんです。野々村社長にお願いになるかと思うんですが、実行委員会参加されると思うんですけども、その際には選手の立場も経験されてると思うので、色々問題があった時には忌憚なく意見を言って頂ければと思うんですが、如何でしょうか。

野々村：了解しました。

挙手者：宜しくお願ひします。

野々村：審判は色々努力をした方がいいと思うし、してると思いますよ。諭す訳じゃないんですけど、サッカーってそんなもんなんですよ。そんなもんだっていうのは、人間がやる事なんでミスはあるっていう前提で、それが勝敗に大きく関わるかもしれないけれどもそういう事も受け入れて次に進んで行こうよっていうような人間の鍛錬、訓練みたいな事もサッカーはしてくれる物だと思ってま

す。だから、そういうミスをスルーするような事はあってはいけないと思うんだけど、そういう見方で見てあげたらいいかなとも言える。けど、当事者だったら僕も腹立って文句言ってると思いますけどね。まあまあ、そんな感じです。言う時は言いますよ、僕も。

拳手者：お願いします。最後にですね、これも社長へのお願いなんんですけど。僕は2004年に生でコンサの試合を観るようになってから通い続けてまして。その間佐々木さん、児玉さん、矢萩さんと社長になられて来たんですが、大体皆さん成績の関係でお辞めになってるという認識です。特に児玉さんと矢萩さんはJ1からの降格の責任を取るような形でお辞めになったんですが、野々村社長にはむしろ経営面での立て直しといいますか、是非とも長く社長を勤めて頂いてHFCの立て直し、ある意味コンサの立て直しでもあると思いますので、お金の問題の方を是非ともしっかりとやって頂きたいなと思います。勿論、社長の立場は選ばれる側だと思うんですよね。続けたくても株主総会で他の社長でって話になつたら多分続けられないかと思うんですけども、J1昇格っていう目的があつても万が一上手くいかなかつたから野々村社長申し訳ないけど辞めてくれっていう人は99%いないと思うんですよね。ですので是非とも経営の方宜しくというお願いをしてですね、何か僕の言葉で足りない所があつたらお詫びしますけれども、宜しくお願いします。

野々村：お願いします。あの、頑張ります。辞めろって言われない限り辞めないっす。

司会：はい、有難う御座います。質問タイムがかなり早めに来て動いておりますんで、一旦ここで休憩に入らせて頂きます。

野々村：いいですね。

司会：10分間の休憩とさせて頂きますので、後ろの時計で40分。40分たってから開始します。開始しましたら、サポーターからのお知らせがありましたら承ります。その後関東サポからの質問にいきます。

・・・休憩・・・

司会：はい、それでは時間になりましたので扉を閉めて頂きます。ここでサポーターからのお知らせがありましたら。

ありませんか。こちらの方にもビラ配りですか雪かきの日程的なものは入ってないので、それはホームページその他でご連絡があるかと思いますのでそれに従ってご参加ください。では関東サポの方の質問、川越さん宜しいですか。すいません、川越さんにワイヤレスのマイクお願いします。

川越さん（以下川越）：関東地区後援会、川越です。宜しくお願い致します。

野々村：宜しくお願いします。

川越：まず一点、宣伝させて頂きたいんですが、開幕戦の磐田戦のバスツアー、1台目が満車になりました2号車を出します。前日入りして翌日帰る方、2泊3日の予定で行く方でしたら乗れますので、是非乗って下さいというお願いです。それでは質問をさせて頂きます。今日は関東地区後援会、総会をやってましてそこで出た質問です。簡単な質問なんですが、英語のホームページは作らないんでしょうかという質問がありました。

野々村：はい。検討というか僕の中では作りたいと思ってんですけど、もうやろうよという風にはまだ伝えてはいないです。松山光くんのプロジェクトに関しても英語の物を作った方がいいんじゃないかなと思っているので。作ったら幾ら掛かるのかっていう事を含めて、来週ぐらいにはスタッフに伝えようかなとは思ってます。松山くんなんて200カ国やってるんで、せめて英語ぐらいは用意しておきたいなとは思ってて。オンラインショップも場合によっては海外から買いたいっていうキャプテン翼ファンもいる可能性もあるんで、その可能性がある限りは少しでもキャッチできるような準備はしたいとは考えてます。はい。

川越：次の質問、質問というよりお願いですね。

野々村：お願い来た、はい。

川越：はい。関東でもイベントをやって欲しいと。例えば社長が同行している試合の後にトークショーを行って頂くとか、というのがあるんですが。

野々村：是非やりましょう。

川越：本当ですか？

野々村：いや、いいんですよ。全然いいんです。関東の人達にも面と向かって話して、協力をお願ひしたい事も沢山あるので、そういう機会を設けてもらえたなら。週に1回ぐらいは東京に行ってますんで、りますよ。その代わりお願いしますよという、そういう事だけです。

川越：はい。次の質問なんですが、クラブ力向上委員会について。昨年度の実績はどの様な感じだったのでしょうか、教えて頂きたいのですが。

野々村：例えばカップルシートみたいな事とか子供を自由に遊ばせてあげられる、開放出来るような場所の設置とか、細かい所は幾つか実現をしたんですね。こうしたらどう、ああしたらどうっていう事を実現するっていう事も、あの会の目的だったと思うんですけど、僕が一番良かったなと感じたのは、あの会の人達って熱烈なサポーターとちょっとサポーターと全く興味ない人とか色々いる。特に全く興味がない、昔はあるけど最近全然行ってないよっていうような人達の意見とか感覚を、クラブの中にいたりすると忘れがちなので、それを忘れないようにする為にすごく良かったなと感じてます。皆さんみたいな近くにいる人達にどうサービスするかっていう事は当たり前の事なんで、絶対やらなきやいけない事なんだけど、それに終始しちゃうんですよ。一番の問題は今まで観てない人とかその周りにいる人達。1万人の人達が近くにいてくれる、その数を2万人にしなきゃいけないという所を少し忘れてしまう、クラブの中にいるとあるんですよね。そこが解決しない限り魅力を外に大きく伝えるという事は出来ない。その感覚を忘れないようにする為には、僕はすごくいい会だったんじゃないかなという風に感じています。あの会に来てくれた人達は月に1回くらいしゃべってはいるので、実際にそこにお給料は発生しないけれども何か動いて。例えばチケッ

トを売ろうとしてくれるとか、そういう様なスタッフというか、仲間になれている感じが持てたのも良かったと思います。はい。

川越：次の要望というんですか、ユースの練習環境なんですが、旭川Uー15の練習グランドは現在土のグランド、東雁来のユース練習グランドの人工芝ももう年が経っていて張り替えとかそういった事。旭川のグランドは人工芝にするとか、そういった計画はないんでしょうか。

野々村：スケジュールが決まってるかどうかというと決まってないです。育成をしっかりとやらなきゃいけないし、いい環境を整えてあげないといけないと思っているので、どうやったら出来るかを去年考えていて。どっちにしてもお金がないと出来ないんですよね。今クラブがこういう状況なので、そこに何千万円を使える予算がなかなか取れない。じゃあどうしようかと。やっぱり toto の助成金を使えるような環境を整えた方がいいだろいう事で、今期からアカデミー。まずはスクールの部分から段々にコンサドーレの社団法人、非営利団体を作って、そっちでスクール部分を運営して。非営利団体なので色々な助成を受けやすくなるし、サッカースクールの全道への展開も。例えば行政の物も使いやすくなる。今年からそういう形を取ります。色々な実績がないと助成金等も出て来ないんですけど、なるべく実績を今シーズンからしっかりと作れるようにして。東雁来の人工芝をどうするとかグランドをどうするという問題に対しては、そっちを上手く活用しながら費用を捻出して、早い段階で環境を整えたいと考えています。

川越：次の質問、報道でありました総合スポーツクラブ戦略の目論見についてご説明お願いしたいんですが。

野々村：今言った事がひとつ、大きな所。後は色々テクニカルな部分もあったりするんで全部話する事は難しい所もあるんですけど、まずはサッカースクールですよね。コンサドーレの場合、札幌市でいうと2カ所しかやってなくて、人数で500人前後しか子供達のスクール生はないんですね。十数年サッカーチームをやっている事を考えると圧倒的に少ないんですよ。大体2千人、3千人、4千人スクール生を抱えていないと都市の大きさとかからしてもおかしいんだけど、コンサド

一レはそれをやれてなかつた。まずは普及も含めたスクール生を増やす。一部のクラブではこれが結構な売上としてクラブを支えている様な所もあるので。売上、利益を出すと共に普及活動をしつかりやらなきゃいけない。一番の問題は場所がないっていう事みたいなんですよね。関東だったら人工芝で屋根がなくとも 1 年間使える所がある。北海道の場合は 1 月、 2 月、 3 月って外だと出来ないじゃないですか。子供達も出来ないっていうのもあるんだけど、スクールコーチを雇えなくなるんですよね。年間通してこれだけ売上があるから、このぐらいでやってよという事で J の O B なんかを雇う事は出来るんですけど、外で北海道でスクールをやろうとすると、それが出来ない、室内を使わないといけないと。室内でサッカースクールが出来る様な場所ってあんまりなくて、学校の体育館とか行政が持ってる体育館じゃないと出来ないっていう事になります。株式会社だとそこは借りにくいやうが貸さない事が殆どなので、非営利団体をまず作ってハードルを下げて、余っている物を上手く使ってスクール生を増やしたい。総合型スポーツクラブを作つておくと色々な面での優遇も効くし、将来的には何らかのスポーツをコンサドーレの名の下にね。カーリングでもジャンプでも何でもいいと思うんです。一緒に出来る入りやすくなるような総合型スポーツクラブにしていきたいなという所ですね。コンサドーレのサッカー部門自体をスリム化するっていう事も出来なくはないし、社団法人自体はコンサドーレだけでやるんではなくて、今回明光義塾。全国でやつているフランチャイズノウハウをしっかりと持つた学習塾と一緒に社団法人を作るので、彼らの塾とスポーツとかっていう様な切り口もひとつある。彼らの持つているフランチャイズのノウハウ、システムを上手く使いながら、広めていくスピードも上げていけたらいいなと考えて社団法人を作りました。そんな感じです。

川越：次の質問なんですが、今年で言えばプレビューパーティーなどのイベントがエスポラーダの試合と被つてしまう事が少くない。どちらにとってもマイナスなのでもう少し考えられないかという意見があるんですが、どのようにお考えですか。

野々村：考えられるだけは考えた方がいいと思いますよね。きっと考えてたんだと思いますが、僕はそこまではっきりとは聞いてないですけど、プレビューパーティーってこないだのパーティー？

あれはもうあの時期のあのポイントしか多分ないんですよね。本当はドームみたいなところでやりたいけれども、コンサドーレカップみたいなフットサルをやってたり。僕らの方に多分優先権はあるんでしょうけど、僕らが使う事でフットサルのプレイヤー達が1日出来なくなつて翌週になっちゃうとかっていう様な事を考慮しながら場所の選定をしているので、考えてない事はないんじゃないかなと思うんですけど。エスピーラーダもコンサドーレになつちやえればいいのになと思いますけどね。（笑）いやいや、ほんとに。

川越：はい、それではユースの試合について。ホームゲームとユース、プレミアリーグの試合が被ってしまう事が少くないんで、ドームの試合の時にドームのサブグランドでユースの試合を行ったりする事は考えてないでしょうか？

野々村：僕、そこまでまだ頭全然回ってないんですけど、そもそも同じ時間にユースやるのはおかしいだろうっていうのはいつも思いますけどね。それはJリーグと日本サッカー協会とかっていう様な所の仕切りがもう少し上手く出来ないと、さっきちょっとお話をみたいにプレイヤーが観に行けない。ましてや一番近くで観なきゃいけないコンサドーレのアカデミーが観に行けないみたいな事は、何とか回避出来ないかっていう風には僕も感じてます。そこは協会なりJリーグなりには色々とチャンスがあったら言つていきたいなとは思っています。

川越：最後の質問になります。ユースにもユニフォームスポンサーをつけられないかという話がありまして、旭川U-15にはついているけど札幌にはついていない。その辺はどうでしょう。

野々村：今年からユースのユニフォームにもスポンサーの広告枠を作ったので。当然トップ程値段はしないんですけど、ここだったら幾らみたいな事での営業はクラブとしては今シーズンからはやつてます。

川越：どうも、ご回答頂きましてありがとうございました。

司会：ありがとうございます。

野々村：関東の皆さんもありがとうございました。

司会：関東サポもライブで見られてると思います。それでは皆さん一番興味あります、今年のチームはどうなんだという選手の状況ですとか監督の思いですとか、キャンプ、沖縄熊本含めてお聞かせ頂けますでしょうか。

野々村：はい。現場に行ったのは沖縄だけですけど。明日から熊本に行きますが、聞いてる範囲と僕が想像する範囲で話をしますと、どうですかねえー。(会場笑) 去年のベースがまずあって、抜けていた選手。そこは若干マイナスになるんだけれども、入ってきた選手を考えるとプラスになるのはまず間違いないかなと。ただ大前提として去年やった選手が去年と同じくらい怪我無くプレイ出来るっていう前提ですけど。また古田が足が膝が、ちょっとどうだっていうような事があるみたいですね。その他は内村も復帰をし。セウソっていうブラジルのP.T.、怪我を早く治すとか怪我をしないようなトレーニングをする役割のところで一人スタッフを探ったのが内村にとっては良かったみたいな話は聞いてます。ただ日本の今迄やっていたスタッフと、やり方とか考え方、違うとは言わないけれどもきっとアプローチの仕方が違うと思うので、その辺の整理が。要は今迄のドクターとかトレーナーと新しいブラジルのスタッフと、その辺をもうちょっと整理しなきゃいけないんじゃないかなとは思っています。でも内村みたいにうまくいったケースもあれば、上原なんかは当初思ったよりも時間がかかったりして。まあやりながら彼の良い所を。ブラジル人のP.T.のセウソの良い所が上手くチームに、プラスの力になると怪我が少ないシーズンになるんじゃないかなという風には感じています。まだ誰がレギュラーとかないんじゃないですか、財さんの中でも。誰かな？ こっからは想像ですよ。最初はやはり上里も深井もボランチの所はいないので、そこの所をどうするかですよね。まあ竜二がやれればとか、宮澤も結構頑張ってましたね。あと誰いますか？ 菊岡？ まだあまり見た事ないんでちょっとよくわからないんですけど、まあでもうん、なんか上手いっぽいですね。あんだけ小っちゃいんだから上手くなかったらこの年までサッカーやれてないでしようから、その辺の上手さみたいなものはもう絶対あると思います。後はキーパー、

相当良いトレーニングをしてるみたいです。赤池キーパーコーチはかなりハイレベルな良い競争をしてるっていう風に言ってますしね。ホスンも痛そうな所は全然無く、やれてますよ。どっちが出るかは全くわかんないですね。どっちかじやないな。（社長笑い、会場笑う）誰が出るかはわかんないですね。後はパウロンがしっかりシーズン通してやれるかどうかじやないですかね。パウロンもセウソが。だいぶ彼のこと信頼して。痛いんだけど、お前大丈夫だ、やれって言われたら信用してやるようになってるらしいので、パウロンにとっては良い精神安定剤的な人材になってると思います。1試合やつたらお前5試合休んでただろうっていう話をこの間行った時にしたら、今年は1試合やつたら3試合にしますって言つてました。（会場笑い）それでいいのかどうかちょっとねー。まあでも去年よりいいかと思って。（社長笑い）後は誰ですかね。むしろ何かこれはどうだっていうのを聞いてもらった方がいいですよね。答えられる範囲で答えますけど、選手の事については。何か無いですか、何でもいいですよ。サッカーの事で質問があれば。聞きたい方どうぞ。

司会：はい、マイクお願いします。

挙手者：高橋と申します。宜しくお願いします。

野々村：お願いします。

挙手者：サッカーの事でという事で、戦術だと思うんですけど、去年の最終戦みたいな形ですね、相手にもう勝つ気が無いっていうか、守ってやろうっていうようなチームがJ2には多過ぎると思うんですよ。そういうチームに対する対策、何か考えてる事があるのかなと。去年だとフェボ選手を後半から投入すると、結構良い感じでなってたかなと思うんですよ。そういうような感じの事は今年は。

野々村：これね、クラブとしてですよ、クラブとして用意できるものとして。守り倒そうというチームには地面にスペースが無い訳なので、フェボみたいなでつかいターゲットがいるっていうのは、クラブとしては用意してあげたいものではありますよね。ただそれは最終手段で、理想を言えばあ

の位守られてもそこを割って行けるだけの何かをこの先段々作っていかないと。要は上手くなったり強くなったりはしてないっていう事なので、去年の最終戦みたいな事が次あったとしたらお前ら何とかそこ打ち破るだけの準備はしてくれよっていう風には、僕としては思いたい。今フェホがどつか行っちゃってますけど、どうなるかはよく分からないんですけど、いないならいないなりにある程度高さがある選手を一枚獲るのか、または守られた中でも自分でドリブルでゴリゴリ行けるやつを獲るのかっていうような準備もやっぱりしていかないといけないんだろうとは思ってます。フェホどうなったんですかね。中国に行ってるっていうのは、あれ?そんな話してなかつたっけ。言つてた? 中国っていう報道なつてました? もういいや。中国行ってたんですよ。(会場笑い) なつてないですか? なつてるか。良かった。(会場笑い) 中国もこの間まで旧正月で全く動かないんですね、本当に。明けてまだ数日しか経っていないんでまだ、まあ動いてる所なんでしょうけど。サッカーの移籍って難しいんですよ。フェホの場合は所有権みたいの持ってるんで、うちが出さないよって言えば戻って、コンサドーレでサッカーしなきゃいけないんだけれども、例えば向こうの方が給料良いオファーがあって、向こうに行きたいと思った時に無理矢理こっちに残してもあんまり良いメンタリティーでプレーが出来るとは思えないですね、まあ僕の感覚からすると。だったら何らかのお土産を残してどうぞっていう風にしてあげるのがうちにとっても彼にとっても良いのかなとは思います。その理屈で言うと伸二も今来てもいいんですけどね。まあこれは難しいところなんですよ。はい、そんな感じです。次、何かありますか?

司会：はい。

挙手者：豊平区から來ました大井と申します。

野々村：よく会うよね。(会場笑い)

挙手者：ああはい、すいません。先程若干行方が分からなくなっていた扱いになっていたフェホ選手が中国にいるんじゃないかというお話をだつたんですけども、そういうれば何の発表もないんですけど、チョ・ソンジン選手の所在についてもしお話を頂けたら。

野々村：まだ発表ないの？ 発表ない？

挙手者：ないですよね。

野々村：あー発表ないんだ。じゃあ発表出来ないっしょ、きっと。(会場笑い)

挙手者：あー、なるほど。

野々村：だけど行先はきっと決まってるんだと思いますよ。僕はだいぶ前から何となく決まってるっぽい事を聞いたんですけど、まあこれも。うちが発表しないという訳では無くて、きっと先方さんがもうちょっと待ってよって言ってるんだと思います。すいません。そうなんでございます。はい次何かありますか？

挙手者：すいませんたびたび、大竹なんんですけど。あの、荒野選手が、手倉森監督からボランチもやれるようになって新聞の報道ではなってるんですけど。例えば本人が、俺ちょっとボランチやりてえって言ってやれるものなのか。監督の構想もあると思うんで、どうなのかなってちょっと思ったんですけど。

野々村：あいつの事なんで何か言ったかも知れませんけど、でも出来るんじやないですかね。19歳、あれ何歳？ 二十歳とかですよね？ 二十歳位なんて、その時にトップ下やってたとしても別にサイドバックやったってなんだって全然良いんですよね、これからの中選手なんで。でも例えば荒野が今のポジションで圧倒的にすごければトップ下ならトップ下でやればいいと思いますけど、今までそこまで行ってないんで、もしかするともっと適性のあるポジションで生きる所もあるかもしれないですから。ボランチならボランチでもいいし、まあヒットするかどうかわかんないけど。サイドバックとかセンターバックとか色々な所をやつたらいいと思いますよ。やれそうだなってその指導者がきっと感じたんじゃないですか。これも指導者次第ですから。手倉森監督はそう感じたかもしれないけど、財前はどう思うかはわからないです。ま、財前も天才みたいなもんですか

らね。去年ほどあんなにメンバーが変わるチームは見た事ないほど変えるじゃないですか。だけどそこそこやるじゃないですか。あれは大したもんだなと思いましたよ。はい、そんな感じです。荒野はちょっと僕も応援してます。あれはもうほんと松山光君みたいになるかどうかみたいな。はい。

司会：はい、その他ありませんか？ 無いんだ。あ、どうぞ。

挙手者：今泉と言います、こんにちは。今年からシーズンパスが大幅にリニューアルされたと思うんですけども、その中で先行入場が特典という事で付いてる。人を誘ったりする時に、僕は早く行くよ。でも誘った人は後から行くよとか、そういう事もあるかなと思っているんですけども。先行入場をなんか違う方法で手にする方法って考えてらっしゃるのかどうかちょっとお聞きしたいと思いまして。

野々村：先行入場違う方法で、なんか考えてますか？ 考えてないですよね、きっとね。それはシーズンパスのインセンティブっていう事でしかないっていうか。じゃあどうしてもこの試合だけは先に入りたくてシーズンパスを持ってない人はどうするかって事ですよね。普通考えたらそこで費用を発生させるしかないんですかね。

挙手者：例えば去年まではファンクラブに入ってれば先行入場出来ましたと。今年はシーズンパスだけになりましたと。一番スタート、先行入場出来た時はシチケ持ってる人とファンクラブ入ると5枚位先行入場の券が付いてきたりしたんですよね。

野々村：うん。クラブとしてはたぶんシーズンパスの重要度をはっきりさせたっていう事で理解をしてもらえばいいんじゃないですか。

挙手者：ただ、うーん。一年間運用してみてちょっと考えて頂きたいのは、今迄ずっと、ある程度大体同じメンツが8割位並んでいるんですかね、毎回毎回。そうした中で、多分今度シルバーチケットを使って来る層が一番影響が大きいのかなって思ってます。60歳以上の当日券ですか。学生チケットの方はパスはあるんですけども、シルバーの方はパス無いんで。そういう人達が今迄の

コミュニティーから外れてしまうって僕は思ってるんですよね。まだ開幕していないんでどうなるか分かんないんですけども、出来ればあんまり僕は変えたくないっていうかウェルカム。来たい人は来て欲しいなって思う。まあ来れない人は来れないで仕方ないだと思う所もあるんですけども、60超えてれば変わってきますんで、そういう人も環境変えたくないなっていう思いがあるっていうのは、ちょっと検討して頂きたいなと思う所ではあります。

野々村：了解です。検討させます。今あそこにチケット担当いますから。はい。

司会：はい、どうぞ。

挙手者：札幌市東区、ウメハラと申します。宜しくお願いします。

野々村：お願いします。

挙手者：どちらかというと要望の件なんですが、まずプレビューパーティー。今年はZ e p p で1800人位の器なんんですけども、ちょっとお金払ってもいいんで、出来れば全員入れる所にして欲しいなと。今年抽選で外れまして、10年来初めて行けませんでした。

野々村：あらー、すみません。

挙手者：あれが無いとですね、やっぱり1年が始まらないという気分になります。

野々村：始まらないんですよね。

挙手者：はい。全くもって始まらないんで、是非ともそれはちょっと。器の問題もあると思うんで。

野々村：そうなんですよね。ニトリ文化ホールでしたっけ？

挙手者：あれはもう2年後には壊されます。

野々村：あれも例えば今年だと使えなかつたり。

挙手者：2400位入ると思うんですけどね。

野々村：ドームは無いし、じゃあどこがありますかね？ 例えば大体3,000とか。

挙手者：僕が思い付くのは、つどーむとグリーンドームと、アイスアリーナは無理だな。豊平の方、きたえーる。

野々村：まあそうですね。後は今おっしゃったように、じゃあそこに費用を発生させて果たしていいものかどうなかつていうのがありますわね。

挙手者：まあそれは検討事項という事で。

野々村：これはでもね難しいですよ絶対。じゃあ一人そこで入場料1,000円ですって言って。

挙手者：昔取ってたんですよね。

野々村：昔取ってたんですか？

挙手者：ファンクラブとか持ち株会とかそういう人達は無料だったんですが、一般の方は一人1,000円取ってたんで、検討出来ない事項では無いんだろうかなという気がします。

野々村：そうですね。ま、1,000円じゃ足りないのかな？（会場笑い）ちょっとそこも検討しますよ。

挙手者：それと、あと二つなんですが。これはすごい難しい話なんですけど、席種のアップグレード。私いつもB自由のチケット持ってるんですが、例えば体調が悪い時とかちょっとお金を払ってもいいんでもS B行きたいなどという時、そういうのも。対応出来るだけのお金、人件費だと思うんですが、ちょっと検討して頂ければなど。

野々村：窓口をどつか一個しっかり設けておいて。

挙手者：それフロンターレがやってるんで、聞けばノウハウは教えてくれるんじゃないかと思うんですけど、どっかで検討して頂ければと思います。

野々村：はい。

挙手者：最後なんですが、厚別に是非ビジョンを付けて欲しいと。多分付けるとなると億単位の金がかかるんで今すぐ出来ないと思うんで、移動のビジョンカーでもいいんで、あって欲しいなと思います。今多分Jリーグでメインで使ってるスタジアムで付いてないのは北九州の本城と厚別位だと思うんですよね。あとはモノクロで京都、西京極かな。それぐらいだと思うんで厚別のグレードを上げる為にも是非とも検討して頂きたいと思います。

野々村：僕等は全然それはもう、そもそも検討します。だけど行政の持ち物だし、今みたいに自分達でそのビジョンを用意出来るような状況でもないし、兎に角あそこはもうちょっとなんとか良いスタジアムにしてくれよって話は、もうもう何度もしましたから今年。何とかしたいんですけど、あそこJリーグの基準に満たないスタジアムっていう事に一応今の所なってるんですよね。さっき話しました通り年間20%はあそこでやる事はいいんでしょうけど、試合数で言うとやっぱ4試合とか3試合とか、そんな感じになっていくんだと思います。

挙手者：ありがとうございます。

野々村：ありがとうございます。

司会：はい、その他ございませんか？　はい。

挙手者：赤黒学生連合のサイトウと言います。よろしくお願ひします。

野々村：お願ひします。

挙手者：先程の方からオーロラビジョンの話があったんですけど、札幌ドームのオーロラビジョン

の使い方でちょっと質問がありまして。よそのチームとかだったらフリーキックとかコーナーキックとかチャンスの時に拍手をしましようってスタジアムを盛り上げるんですね。去年アウェイの水戸戦に行ったんですけど、そこでチャンスタイムですっていうのがあって、サポーターの数もコンサドーレに比べたら少ないので、ものすごい盛り上がったんですよ。僕が思うに、サッカーをスタジアムで観る楽しみってプレーの質とかもあると思うんですけど、スタジアムのそういう盛り上がりですか非日常感っていうのは初めて観る人はすごい楽しいと思って。すごい立派なオーラビジョンがあるんで札幌ドームでも出来ないのかなと。

野々村：要は運営側がみんなでこうしようって煽るみたいな事ですよね。言ってる事はその通りだと思うし、そういう事があってもいいかなとは思うんだけど、ゴール裏の人達はその空気を今でも俺は作ってくれてると思うのね。ビジョンでこっち側がなんかこうしようって言わなくとも、自然発的にその空気が出来るっていう風に、今もなってると思うんだよね。4万人入る所に1万2,000とか1万5,000人しかいないんで、横とか逆サイドのゴール裏とかは一体感が何となく出せないような感じでいるだけなんじゃないかなと思うんだけど、それはどこで観てる時？

拳手者：僕は普段SBとかSAとかで観る事が多いんですけど。こういう言い方失礼なんですけど何かゴール裏だけ盛り上がってて、僕は何かちょっと冷めてるなーって思うんですよね。で、スタジアム全体でわーってなったら楽しいと思いませんか。

野々村：いや思うよ。思うけど、それがじゃ今なんで出来ないと思う？自分で。

拳手者：ちょっと、なんとなく周りも静かだし。

野々村：恥ずかしいみたいな感じもある訳でしょ。

拳手者：応援に対する熱の差が。ゴール裏の人達と他で観ている人達すごい差がある。

野々村：ま、あるよね。でもそこは過渡期っていうか成長していく段階である意味仕方ない事かな

とも思ってて。もしみんなでビジョンで同じ様な応援をしようって言って煽って、中央にいるような人達もやったとしてもそこに本気度みたいのはまだきっと無くて、ゴール裏の人達のあの熱みたいなものが段々広がっていってその真ん中の席も埋めていったらいいなと思うのね。これは去年から言ってる事なんだけど、コンサドーレの試合と後ろ。ゴール裏を中心とした熱狂的に雰囲気を作ってくれる人達。中央の席にもそういう人達いると思うんだけどその人達ワンセットでコンサドーレの興行なのね。それを観にハーフラインぐらいでたまにちょっと温度差違うけど観に来てくれる人がいるって事で、今俺はいいのかなと思ってて。で、その空気を観て自分もああいう応援の仕方をしてみたいと思う人がどんどん増えていけばいいんじゃないかなと感じてるんで、自然とみんなでそういう風に出来ればいいなとは思う。だけど一方で去年クラブの中でも同じ様に何かみんなでやったら面白いんじゃないかっていう様な、今みたいなビジョンを使って何かしようよみたいな、アクションとして分かりやすい事をやろうよっていうミーティングもしてるんで、何かいいアイデアがあったら実現はしたいとは思いますけど。

挙手者：はい、ありがとうございます。

野々村：はい、お願ひします。

司会：その他ありませんか？　はい。

挙手者：千歳から來ました、ミヤモトと申します。

野々村：お願ひします。

挙手者：パッと思い付いた考えなんですけども、厚別は難しいと思うんですけどドームのアウェイゴールの方に黒い布の緩衝地帯が必ずワンブロック。折角あそこに出してるのもったいないんで、あれに何か広告とか付ける事出来ないんですかね。

野々村：まあ、それも出来なくは無いと思いますけどね。

挙手者：警備会社とかですね、例えば北海道警察だと難しいと思うんですけど、（会場笑い）折角あそこ隔離されてるのに、逆に隔離を目立たせる様に広告出したら面白いかなと思ったんですけども、それはJリーグ。

野々村：今年そこは売ってなかつたっけ？（社員に確認）まあ兎に角そういう事を、色々なところで考えてはいるんで。

挙手者：ホームのゴール裏いつもいるんですけど、すごい目立つと思うんですよね。

野々村：いや、そうだよね。テレビ的には映らないけど、スタジアムにいる人からすると良く分かるっていうね。

挙手者：そういうちょっと。

野々村：はいはい、そういう事はもうどんどんやった方が良いと思いますんで。

司会：え、その他ございませんか？ 例年ですと色々な数字の説明ですけども、今年は社長どんどん答えて頂けるのでどんどん進んでいってます。はいそちらの方。

野々村：長くしゃべってもしようがないですからね。はい、お願ひします。

挙手者：高橋と申します。目立ちたくないんで座らせて頂きます。他の方質問なさったんで、ホームページ見てて分からなかった所で質問させて頂きたいんですが。2月1日に発足した松山光プロジェクトなんですが、参加形態としてスタンダードは一口1万円という事で何口でも申し込み出来ますっていう風に書かれてるんですが、サポートの方は1000円という事で、今一つはっきりしないんですね。例えばよく色々な方がブログにも出てたんですけど、一口1万円だとなかなか。子供とか参加したいと思っても出来ないんで1000円位から出来る形が出来れば良い。やっぱりそれを汲み上げくれたっていう事で喜んでたようなブログもあったんで非常に良かったんですけども、ステッカーのみという特典になってるんですが、申し込み場所が会場とか競技場に限られてどうい

う形でサポート出来るのかっていうのが。例えば一人何口でも出来るのか。今日は試合に勝ったからちょっと帰りにサポートしていきたいという人もいると思いますし、色々な参加形体あり得ると思うんですよね。今ネットの時代なんでそういう様な事もありますし、その辺アイデアっていうんですか、聞かせて頂きたい。もう一つは、去年事前に予約購入した人がホームページの方に何人ぐらい申し込んでるっていうのが分かって非常にこう。何て言うんですかね、見るのが楽しかったっていうんですか。そういう様な形で松山光プロジェクトが会員の方に目に見える形で。金額的にフィードバックするのが難しかったら例えば何口ぐらい、或いは何人ぐらい参加してるとか。そうすると参加する方も非常に張り合いがある。これから始まる事なんですけどもアイデアを聞かせて頂きたいなと思って。

野々村：はいはい。そのサポート1000円からみたいなものは、別に1000円でも1100円でも2000円でも3000円でもっていう風な意味合いで。まあ1万円を入れてくれた方には住所とか何とか色々、ああこの人だなっていう事が分かると思うんですけど、会場で今日は1000円入れるって時に、どこまで個人を特定出来るかっていう様なところがあつたりするので中々難しい。10回1000円入れたから1万円になったっていう事をこっちの方で把握するのも1回1回書いてもらったりして証明するのも難しかったりっていう様な問題があって。1万円を3回に分けて3口入れてくれた方に鉢巻をみたいな事が特定出来るかどうかっていうようなところの整理も色々考えていかなきやいけないなというところはあります。ただ基本的には1口1万円からですけど、僕は小学生が自分のお小遣いの中でも100円入れるとか200円入れるとかっていう事も、意味合いとしてはそっちの方がもしかしたら。絆的な事で言うと大きかったりすると思うので、そういうものをどんどん受け入れて行ける様な仕組みにはしたいと思っています。実際にスタジアムでプロジェクト活動をするっていう事はやろうと思ってますけど、如何に多くの人に目に付くかとか協力してもらえるかっていう様な事も考えながら色々な所に設置場所等を作っていくなきやいけないなっていう事も一つ、間違いなくありますよね。で、さっき最初の方にお話しした通り僕がパスを出したので受け取った人は次の人にパスを出すっていう様な活動を、実際に何人のパートナー

の人達にやってもらえるかみたいなところがポイントになるんじゃないかなとは思ってたりもします。人数っていうか集まったものに関する発表、金額等では出すつもりはないんですけど、僕は1万人の友達を作りたいっていう様な事を発信して行こうと思うので、今何人の人がコンサドーレの松山プロジェクトで友達になってますっていう様なカウントは、ホームページに出して行くようにはしたいと思ってます。たださっきも言ったけど1万円を出してくれた個人が特定出来る人の数と、現場現場で1000円とか500円とか100円とかを出してくれた人の数までカウントするか、その数を正確にカウント出来るかっていう所は色々な準備をしないといけないなとは思ってますけど、何人の友達っていう様な形で露出はします。

拳手者：今の段階では例えば今日は3000円出しときたいとか次の時にまた今日は1000円出そうとか、そういう様な一人1回じゃなくて何回も或いは何口分も出すっていう形でも出来るんですか？

野々村：それはもう全然出来ます。出来るんだけれども、一つ心配なのは細かくやって行った時に個人が特定出来なくなる可能性はあるっていう事ですよね。極端な話、50回に分けて1000円を入れ5万5口分サポートしましたっていう様な事が分からない可能性がありますよね。例えば募金箱的なものに1000円ずつを50回に分けて入れてったりする場合。そこをどうするのか。その時にいちいち50回全部書いてもらったら個人は特定出来ますけど、それどうしようっていうのはちょっとあったりして。書いてくれる人は書いて欲しいし、そんなのいらないよっていう人は書かずに募金してくれるっていう様な事でもいいのかな。だから何回でも構わない。

拳手者：たぶんみんなサポートしたいと思うんですよね。そういう還元、フィードバックっていう事期待する人もいるかもしれないんですけど、1000円ぐらいだったらもう気分。その日の気分とかは寄付感覚で個人特定されなくともサポーターの人だったらやってくれると思いますんで、その辺を広く色々なサポーターの人の意見聞いてあれば結構簡単でクラブ側の方も負担が掛からないやり方、参加する側もあまり面倒臭くないっていう方が色々な参加が募れるんじゃないかなと思って

期待しておりますんで宜しくお願ひします。

野々村：ありがとうございます。いや、ほんと仰る通り。僕の想像するにも今みたいな事を言って下さるのが近くにいるサポーターだと思うんですよね。で、その一步外にいるような人達をどう巻き込むかっていうところがこのプロジェクトの成功にも関わってくると思いますし集客にも関わってくると思うので、その人達を捉まえる時にどういう準備をクラブはしといった方がいいかなっていうところの方が心配ではあるんですよね。はい。

司会：はい、ありがとうございます。じゃ無ければめちゃめちゃ会は早く終わりそうですがも、終わっちゃっていい、

野々村：これでも今迄4時まで何やってたんですか？

司会：いえいえいえ、もうそれは過去の社長に対する批判になりますので。事細かに色々な数字の面ですとかそういうのをご説明を頂いておりましたので。

野々村：そうですか。

司会：はい。あ、端的に言えばGMの話が長い。

野々村：なるほど。

司会：ええ、そういうのもあったんですけど。では。

野々村：大丈夫ですかね。何か他にいいですか？ しゃべり足りなくはないんですけど。

司会：あ、足りないんですか？

野々村：足りなくはないんですよ。

司会：はい、じゃあ。

拳手者：田中と申します。よろしくお願ひします。

野々村：お願ひします。

拳手者：まずは、先日スカパーの社長の密着見たんですけども、あまり食生活が良くなかったようですので（会場笑い）、体調だけには気を付けて頂ければと思っております。

野々村：ありがとうございます。

拳手者：よろしくお願ひします。今年小野選手、小野伸二が加入する、仮契約っていう事で。めちゃくちゃ正直楽しみにしておりましてそれでお腹一杯ぐらいの状態なんですが、どれぐらい楽しみかと言うと、普段ゴール裏のBのシーチケなんですが、今年はS Aにまずしました。

野々村：あら。ありがとうございます。

拳手者：とんでもないです。で、質問というか、もし小野伸二獲得で裏話的なものがあれば。社長でなかったら小野選手も来なかつたのかなと思っているのでどうやって口説き落としたとか、何かそういう裏話があれば教えて下さい。

野々村：何で小野伸二に行きついたかっていう所ですけど、それはさっき話をした通りなんですね。やっぱりみんなにも。みんなっていうのはここにいるような、近くにいつも支えてくれているような人も喜ばせたいし、その外側にいる人達も刺さる選手じゃないといけないっていう所を考えた時に、極端な話デルピエロとかカカとかだったら来るんじゃねえかなって考える訳ですよ。だけど現実的には中々難しいと。でもそれとおんなじ様な感じで日本人達が思う選手って伸二じゃないかなって思ったのが、11月ぐらいだと思うんですよね。11月の頭ぐらいだったかな。違うかな、10月の頭かな。ま、そのぐらい。6月とか5月ぐらいには番組で伸二と一緒に、その時にはお前頑張れよみたいな感じで一緒にサッカーするなんてこれっぽっちも思わなかった。10月にその事を思ったんで、すぐに話を振ってみてよと三上に言って。そしたら案外、ちょっと興味を持ってる

っぽかっただんですね。金額は言ってなかつたと思うんだけどな。たぶんお金結構くれると思ったんじゃないですかね、伸二も。で、11月何日だったか。11月末ぐらいだったですかね、たまたま日本に帰つて来てるって言うんでバツと行って。僕の予定表があるんですけど、スタッフだったら誰でも見れるんですよね、ウェブ上で。だいたい何処で誰々と打ち合わせみたいの書いてあるんですけどそこだけは何も書かずに打ち合わせって書いて、東京に行った。勘のいいスタッフはこれ何の打ち合わせだ?怪しいなっていう事が分かったと思うんですけど。行って会つたら結構乗り気、え?って思うぐらい。その前に色々こっちのある程度の条件と、どういう事して欲しいっていうのを伝えてあつたので、そのプロジェクトに興味を持ってくれたんだとは思います。ただ代理人が当然いますから、代理人さんはもし日本に来るんであればコンサドーレはある程度確約確定したようなオファーはあるけれども、もしかすると他もあるんじゃないかなっていう風に考える所もあると思うんですよね。それは当然だと思うんですけど、尚且つ報道に出たんで、あれ?小野伸二いけるんだと思ったクラブ結構一杯あって。実際にオファーは結構入つたんですよね。たぶんうちが一番低い金額なんだと思うんですけど、僕は。ぶっちゃけ伸二に言ったのは、噂かほんとか分かんないですけど話があるチームを、お前あそこ行つたって絶対面白くないよって言う事を(会場笑い)。や、これは僕ほんと仲間としてその、伸二のプレースタイルとキャリアも段々終盤に来てあいつが一番やりたいサッカーってなんとなく想像は出来るんですよね。で、そうじゃないサッカーをしている所でそこそこの金貰つてやるより、自分がやりたいサッカーで尚且つ若い選手を育てて、クラブとして大きくなつて行こうっていう所の方がやりがいはあるし、サッカーをやってても楽しいと思うよっていう話をずーっとしました。あそこより絶対こっちだつって。選手として当然期待はしてるんだけど、若い奴を伸ばしてよっていう話ですね。でまあうち、僕。僕とは言わないな、俺が伸二に期待したいのは勝つ事と若い選手を一丁前にするっていう事。なんだかんだ話をしてると、ちょこちょこ日本のサッカー見てるのか、出て来た名前、前田の事は知つてましたね、やっぱり。前田は相当上手いっていう風に。だけど走んねえんだって話を(会場笑い)する訳ですね。仮契約する前だけど東京に行って話した時も伸二は、いやでも僕が入つたら前田を5%から10%は上手くさせますって言つてました。(会場笑い)だから、お、これ行けんじゃね?って思いました、それで。

(本人&会場笑い) その後ですよね、たぶん報道に出たのは。出たらまたどっかちょっと急にお金が出来た様なクラブがあるみたいで、そこにお金を使おうとする訳ですよ。取られちゃまずいと思ったんで、大晦日に30日にちょっと行ってハンコ、(会場笑い) 契約書を持って。1月1日に伸二ゲームあったんですね。そのゲームは負けたんですけど、1月1日だからオーストラリアも店やつてなくて、コリアンタウンみたいな焼き肉屋みたいな所で。なんつったら良いかな?綺麗な焼き肉屋さんじゃない焼き肉屋さん(会場笑い)。客は俺と伸二と代理人と伸二の子供二人と奥さんしかいないっていう、そこで、ちょっとおい、ハンコ押してって。(会場笑い) 周りも誰もいないしもう分かんない、大丈夫だって(会場笑い)、こうやってハンコ押して貰ったんですよ。勝って押したかったみたいな事は言ってましたけど、まあまあこれで良かったなど。俺ももう3日間一人でオーストラリア行って何もする事なくて、ハンコ押して貰っただけが仕事ですからね。(会場笑い) でも良かったなとは思いますけど、こっからですよね、ほんと。あいつがどこまでもう一回選手としてやれるかみたいな事。メジャーな選手だなっていうところもあったり、楽しみにしてる人が多かったり。皆さんは良いんですけど、クラブとして受け入れる方として来てくれてありがたいんだけども、一選手としてこれからどうやって行かなきゃいけない。プロジェクトにしっかりと、あいつも結果を出さないといけないっていう。こっちもこっちでそれなりに厳しく見なきゃいけないところもあるので浮かれてばっかりもいられないんですけど、まあ良い関係を作りながらやって行けたら。他のクラブの人達からも羨ましがられるところもあって、それはそれで札幌のサポーターやってて良かったなと思って貰えればいいなとは思うんですけど、時に厳しく見る事も必要かなとも思いますが、甘やかさない様にひとつ宜しくお願ひします。裏話的なのはそれぐらいしかないかな。

拳手者：ありがとうございます。

司会：じゃあ、締めますか。いいですか？ 一流選手は焼肉屋にも実印を持って行くという事が良くわかりました。

野々村：もう、そりやそうですよ。

拳手者：すいません、イチジョウと申します。よろしくお願ひします。新規のお客さんについて聞きたいもしくは皆さんに聞きてみたいんですけど。人を誘おうかな、コンサドーレの試合に連れて行こうかなって思った時に、まず札幌ドームに行く時に会社の人を誰か誘おうとしたらなんでも高い、使用料だけじゃないですね。

野々村：ええ。

拳手者：こっちが負担する金額も、ビール・ジュース全部高いですよね。まずそこを何とかならないのかなっていうのがあります。あとは行ってもいいけど帰るの面倒くさいよねって言う人も結構いると思います。で、考えてみたんですね。JR北海道スポンサーについて JALさんについて JR北海道バスさんについて、タクシー会社ってあるんですか？スポンサー。

野々村：タクシー会社のスポンサーってないよね。

拳手者：あってもいいのかなっていうふうに思いました。

野々村：ちょっと作ろうかなって。コンサタクシーみたいのってないじゃない。

拳手者：はい。チームを支えるためのスポンサーじゃなくて、行くためサポーターを支えるスポンサーもあってもいいのかな。例えば試合帰る時に2000円分のタクシーチケットを1000円で札幌ドームで販売する。1000円はタクシー会社がスポンサーとして負担してくださいよ、その代わりスタジアムのビックビジョンとかにタクシー会社と電話番号、例えば何分間か載せとくとか。昔小樽に住んでて引っ越してきてからタクシー会社何処使つていいか未だにわかつてないです。すすきので飲んでも何のタクシー乗ろうかとも考えた事がなくて。もしそういうスポンサーがあったら僕らもまた別な機会でそのタクシー会社とかも応援する機会があるのかなっていうふうに、ちょっと一つのアイデアとして思いました。

野々村：なるほど。ありがとうございます。行きにくいとか帰りにくいとかってのは、まああった

りもするよね。

拳手者：そこをどう皆さんは逆に札幌ドーム誘うのかなっていうのもちょっと聞いてみたいところでもあって。

野々村：まあね、これ難しいよね、そこは。距離歩くのとか帰るのしんどいって思う事よりも、あそこ行ったら楽しいっていう方が上回わらないとなかなか難しいから。

拳手者：難しいです。まず家族から誘おうかなって思ったら、じいさんばあさんになると行けないって、もうキツイ。エレベーター自由にじいさんばあさん使ってもいい空間を作ってくれないかなって思つたりもしました。

野々村：金一杯ありそうだからね、作ってくれればいいのにね。一杯払ってるんだから。

拳手者：今あるやつをあんまり使わせてくれてないですよね、きっと。閉鎖してたりとか。

野々村：うーん、施設の中の事とか売ってる物に関してはドームに言うしかないんだよね、もう。俺らでできる事は今みたいにもしかしたらタクシーなのか、まあまた去年1回やりましたけどすすきの行きのバスみたいな物はまたやりたいなとは思ってはいます。

拳手者：あとは変な所ったら住んでる方いたら失礼かもしれないんですけども、地下鉄とかJRの駅が届いてない場所にスポット的にシャトルバスみたいの出せないのかなって思つたりも。

野々村：まあそこはうちとして出すっていうよりそれこそスポンサーに何とか用意してもらうみたいな事なんだろうけど、いずれにしてもコストがかかる事なんで何処まで協力をしてくれるか。出す方の企業としてもそこにバスを出したらどのぐらい企業価値を上げるとか宣伝するとかって効果があるかどうかっていう所だよね。なかなかね、腰が重い所があるのは事実なのでそういう事をやって行くって事も大事だけど、さっき言った通りどんな寒くともどんな熱くともどんな遠くともあれだけは見たいよねっていう魅力的なものをとにかく用意をするっていう事を今はクラブとしてや

るっていう事の方が大事。その魅力の多くは皆さんがあなたに作ってくれる試合の雰囲気とか、いつも協力してくれるクラブに対する愛情みたいなものが魅力だと思うんで、とにかく今はそれを作つとけばいいのかな。それが大きく伝わるために伝えてくれるメディアがもうちょっとしっかりとサッカーに目を向けてくれるような瞬間さえ出来れば多くの人には広がって行くんじゃないかなとは思っているので。いろんな準備はするけど、まずは魅力をみんなでもう一回作ろうよっていう所を自分としては去年も今年も訴えていきたいっていう所ですね。

挙手者：わかりました。次に個人的な要望って訳じやないですけど、月曜日ナイター、ぜひテレビで地上波でやれたらいいなど。

野々村：やれたらいいけど地上波で月曜日 7 時、7 時半。まあ今の北海道のメディアじゃ難しいんじゃない。だけどやりたいよね。NHKだったらどうなのかな？ まあ難しい所はあるんだろうけど普通にやれるくらい魅力あるよねっていう事をわかってもらわないとね。魅力はあると思いますよ、中に入ってやってみてね。で、魅力的だなと思う人たちが今はこのぐらいしかいないけど、それが 3 倍 4 倍になれば。それを伝えるのは僕はメディアだと思ってるけど、なかなかそうは行かないから今はみんなで一人一人こうパス繋いでいこうよっていうような作戦でしかやれないかなと。まあそこん所で協力していただきたいとは思います。

挙手者：ありがとうございます。

野々村：はい。

司会：はい、それでは会を締めます。いいですか。コンサドーレコールで締めたいと思いますが、今までずっと 20 回近い中男性ばっかりでしたけど今年は女性にやってもらおうと思いますのどうぞ。コンサドーレコールの後に皆さんで 3 回コンサドーレを続けて頂くという事で。サポーター歴とお名前を。

井上さん：あっ。札幌市豊平区に住んでます井上です。サポーター歴はチーム創設からずっとです。

という事で、せん越ながら。初めてなんでうまく出来るかわからないんですけど、よろしくお願ひします。ここにいる皆さんと関東地区後援会の会場いらっしゃる皆さん、思いを九州熊本にいる選手に届くぐらいの気持ちでコールをお願いしたいと思います。では、いきます。コーンサドーレ！

(会場) コーンサドーレ！！コーンサドーレ！！コーンサドーレ！！ (会場拍手) ありがとうございます。皆さん今年1年一緒に頑張りましょう。(会場拍手)

司会：どうもありがとうございました。社長、どうもありがとうございました。

野々村：ありがとうございました。宜しくお願ひしまーす。(会場拍手)

司会：今日はどうもみなさんありがとうございました。帰りは交通安全で、気をつけて転ばないように帰ってください。ありがとうございます。